

# 子育てにおける母親の役割について

～内観研修・診察介助を通じて学んだこと～

札幌太田病院 外来

本間 綾<sup>1)</sup>

1) 看護師

## 1. はじめに

私は今、子育ての真っ最中である。札幌太田病院に就職して約4ヵ月であるが、その間にたくさんの患者とその家族に会う事ができた。

外来診察の場面を通して、内観研修で得たものが重みを増していく中で、これから自分が母親として妻としてどうあるべきなのか、いろいろと考えさせられる事が多く、ここで感じた事と、内観研修で学べた事を述べる。

## 2. 内観研修で学べたこと

普段から身近な人に対しての自分を振り返っているようで、できていなかった事を自覚する結果となったのだが、特に大きな収穫を得る事ができたのが、自分の家族である夫と子供に対してである。忙しいから仕方がない、家族なのだからこれくらいは大丈夫、と、知らず知らずの内に夫にも子供にも甘えていた事を、はっきりと自覚する結果となった。

「忙しいから」、「このくらい大丈夫」という私の甘えが、家庭の雰囲気に影響してしまうこと、その影響が子供にも及んでしまうこと。

『夫婦の葛藤は子供を巻き込み、母子関係、父子関係をゆがめ、子供の人格形成に悪影響を与えます』<sup>1)</sup>とあるが、母親としての役割を全うするには、まず、夫婦間の関係を充実させ家庭の基盤を作ることにあるのだと気付かされた。私の母親はいつも私に、「家庭が円

満にいくか否かはお前次第だ」と言うが、やっとその意味がわかってきたところである。いつも当たり前だと見てきた母親の姿に頭の下がる思いがした。そういえば、どんなに忙しくしていても、家は明るかったし、落ち着ける場所だった。今の私では、まだ十分にそこまでできずに、逆に夫と子供に助けられている。甘えている事を自覚していなかった時は、何かある度に心の中がもやもやとしていたが、今はさほど抵抗なく、心の整理がつけやすくなったようだ。

## 3. 診察を通して学べたこと

「娘は母親を模倣して女性として妻や母としての役割を学び取るのでモデルである母親に欠ける点があると、子はその役割取得に大きい支障を来すと思われる。(中略)おやじのしつけは一つだけでいい」という語録<sup>2)</sup>があるが、私はそれを初めて見た時に「なぜ子育ては二人ですることなのにこうも母親の役割が大きいのだろう」と、疑問に思った。自分を重ねてみた時に、プレッシャーを感じ、合わせて何となく反感も憶えていたからだ。

そんな気持ちを抱きながら、日々診察介助に付いていると、やはりその患者の生育歴や母親がどんな人なのかと気にかかるようになった。両親が幼少期に離婚・父親が単身赴任中・祖父母に育ててもらっている・母親が忙しく家にほとんどいない・母親が何らかの精神疾患を抱えていて幼少期からその症状を目

のあたりにしてきた、など、子供自身では決めることのできない環境に置かれていたということ、またそのことが子供に強く反映し、まるで輪廻のように繰り返されてしまう事、そしてそのことを親自身が実感していないのではないかという事を知った。それは私にとって、とてもショックな内容だった。子供には何の罪もなく、未来も真っ白なはずだからだ。そう思った時から、最初に記した語録に対する反感が徐々に消え失せ、プレッシャーも子供への愛情を確かに持った責任感へと変わっていくのを感じた。と同時に、子育てに対する今までの自分の姿勢が急に恥ずかしいものを感じられ、ぎゅっと身が引き締められたような気がした。

『子供は胎内で母体の強い影響を受けながら発育し、さらに出生後も母子相互作用によって、母親の強い影響を受けながら成長していく。母親が子供を腕に抱いて授乳することは生理的・心理的欲求を満たし、子供がはじめてあたたかい愛情に触れる機会をつくることによって、健全な「人」への育成をはかるという尊い使命をもっているのである』、『家庭は子供が両親の庇護の元に育っていく場であるとともに、家族との人間関係の中で社会性を身につけていく基本的な場である』<sup>3)</sup>というように、子供の人生の出発点を預かり、その後の自我形成のために、母親としての責任は大きい。私はその責任を重圧として捉えていた。しかし、子供にかけたものがその子供、その子供というように受け継がれていくものなら、なおさら、私が母・父にしてもらった事に感謝し、自分も子供にそれを伝えていかなければいけないと思った。

今過ごしている何気ない生活が、何よりの幸福だということを診察を通して教えられる日々である。

#### 4．おわりに

子育てにおける母親の役割はなにか、と問

われたら、まだはっきりと答える事は私にはできない。まだ子育てにつまずき、悩んでしまう事もあり、日々反省の毎日だ。きっと、これからもっと大変になるかもしれないが、子供が心身ともに健やかに大きく育ってくれることが、何よりの願いである事に変わりはない。そのためには、基盤となる家庭を守れるように夫と協力して、私自身日々の業務の中で教えられること、夫と子供に教えられることを大切に、そして、いつも学べることを見逃さないように、これからも努力していかなければならない。

#### 文 献

- 1) 太田耕平：幼児から高齢者までの心の発達十段階心理療法．第10版，医療法人耕仁会 札幌太田病院，p67，2004
- 2) 札幌太田病院 院内掲示標語，2005
- 3) 松本清一：母性看護学概論 第8版．医学書院，東京，pp4～62，1995